

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 10月 6日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0171300171		
法人名	医療法人社団 翔仁会		
事業所名	グループホーム 雪ぼうし		
所在地	北広島市輪厚704番地31 (電話) 011-377-3914		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年10月3日	評価確定日	平成20年10月29日

【情報提供票より】 (20年9月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年 7月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17人	常勤	9人 非常勤 8人 常勤換算16.4人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての 1～2 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費21,000 円 暖房費(11～4月)8,000円
敷金	有( 円)・ <del>無</del>		
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円) <del>無</del>	有りの場合償却の有無	有 / <del>無</del>
食材料費	朝食	200 円	昼食 250 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当た 800 円		

### (4) 利用者の概要(9月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	1名	要介護2	7名		
要介護3	5名	要介護4	2名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.5歳	最低	69歳	最高	97歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団翔仁会 輪厚三愛病院
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

雪ぼうしは、医療機関及び老健施設を運営する医療法人が平成16年に開設したホームで、建物内部は明るく清潔感があり、ゆったりとした共有空間が特徴である。運営法人は利用者が高額な負担が無く、入居しやすいホームを目指し、ほかのホームと比べて低額で入居可能なため、家族から感謝されている。さらに運営法人の病院が隣接しているため、利用者の家族も安心感をもっている。職員は何でも話し合える良好な人間関係を築き、これがケアサービスにも反映され、利用者は職員とともに支え合う関係の中で安心して暮らしている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	利用者の栄養バランスやカロリーのチェックは、運営法人内の管理栄養士がホームの食事メニューや写真なども参考にしながら、栄養指導報告書を作成するなど取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価表はユニット毎に職員全員が内容を検討して会議でまとめ、これをもとに管理者が作成している。改善が必要な項目はミーティングで具体的対策を検討し、取り組むようにしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は平成18年8月から2ヵ月毎に行政担当職員、包括支援センター、民生委員、町内会代表などのほかにホーム関係者をメンバーとして開催している。会議ではホーム活動状況報告のほかに災害時の取り組みと地域への協力要請など、活発な意見交換がなされ、ホーム運営に反映させるよう努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見や苦情は、苦情箱の設置もあるがホーム来訪時に職員の方から気軽に話せるよう接触して把握するようにしている。今までは家族からの要望事項が主であるが、これらは申し送りやミーティングで検討しながら改善するようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームは運営推進会議を通じて地域の理解を得よう努めているが、町内会にも加入して町内会行事の地域三世交代会、こぶし座公演、お祭りなどに積極的に参加している。また、運営法人が主催する行事に地域住民の方々が参加するなど、地域との連携が進んでいる。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム運営理念の中に地域との係わりを持ちながら、地域住民と利用者との人間関係を大切にする趣旨が盛り込まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホーム内や職員ロッカー内に掲示し、毎日の申し送り時にも唱和している。さらに、会議などで理念に基づくケアサービスの実践について話し合うなど、理念の共有と取り組みに努力している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは町内会に加入しながら、地域三世代交流会など、町内会行事に積極的に参加している。また、病院や老健施設を併設する運営法人が主催する行事に地域住民の方々が参加するなど、地元との交流を深めるようにしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表は、ユニット毎にリーダーが中心となって職員全員に説明され、会議で検討しながら作成している。評価結果については、会議で話し合いをしながら、改善に向けて取り組むようにしている。		

北広島市 グループホーム 雪ぼうし

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヵ月毎定期的に行政担当職員を含めて多彩なメンバーで開催している。会議ではホーム運営状況報告と地域の防災対策など積極的な意見交換が行なわれ、その内容をホーム運営に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護関連事業者や行政担当者が参加する地域ケア会議に積極的に出席して情報交換を行っている。さらに、運営推進会議にも行政担当者がメンバーになっているなど行政との連携を深めている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族のホーム来訪時に利用者の状況を知らせているが、毎月の葉書だよりで写真や一人ひとりの暮らしぶりを報告している。また、3ヵ月毎に発行する「雪ぼうし便り」でホーム全体の様子や行事など各種情報を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの要望などは、来訪した家族が気軽に話せるよう職員が配慮しながら把握している。要望などがあつた際には、速やかに申し送りや会議で協議し、ケアサービスなどに反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	近年は職員の離職や異動がほとんど無いが、新人職員に対しては、当分の間、利用者に不安や影響を与えず、馴染みの関係を築くように経験のある職員がマンツーマンで指導している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修は、併設の医療機関や老健施設を運営する法人が合同研修会を実施し、これに順次参加している。外部研修へはグループホーム協議会主催など各種研修へ交代で運営法人が参加費を負担しながら派遣し、終了後は会議などで報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北広島市の地域ケア会議やグループホーム連絡会に積極的に参加し、情報交換など、ほかの業者や介護関連事業者との交流を図っている。	○	ほかのグループホームとの実習や見学などはまだ実施していないが、グループホーム連絡会で今後の実施を計画しているため、是非実行に移すことを期待したい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	隣接の老健施設からの入居者には、事前に職員が行き来しながら、馴染みの関係を築き、外部からの入居者には、ホームを家族とともに見学していただき、入居当初は家族に頻繁に来ていただくなど、ホームの雰囲気に馴染めるよう配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者とともに支え合う関係の意識を持ち、ホーム内の作業や食材の買物を一緒に行なっている。日常生活においてもホームの規則を優先する事なく、利用者のペースに合わせて支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの事前情報収集などでアセスメントを行ない、これを参考にしながら利用者の表情や行動から思いや意向を把握するよう努めている。把握が困難な場合は、職員が会議などで協議しながら、急がず時間をかけて理解するようにしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントや医療機関の情報をもとにカンファレンスで職員全員の意見を取り入れて介護計画書を作成している。作成した計画書は家族にも説明して了解を得て実施している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月毎に介護計画の定期見直しを実施しているが、利用者の状態変化が生じた際には、隣接の医療機関とも相談しながら、その都度現状に合った介護計画に変更するなど、見直しを行なっている。		
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームは年間行事計画にもとづき、花見や食事会など多彩な外出支援を行なっている。また、隣接する医療機関との緊密な連携によって、24時間対応が可能のため、家族や利用者に安心感があるなど、各種の支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接の協力医療機関から毎週往診があり、症状によっては、ほかの専門医療機関を紹介していただける。利用者の希望があれば、協力医療機関以外のかかりつけ医の受診も自由で、市内の場合はホームの車両で送迎している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームは重度化や終末期の指針を作成し、利用者の入居時に家族へ説明して同意を得ている。終末期の利用者が発生した場合は、隣接医療機関と十分な連携を取りながら対応するようにしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の各種個人記録は適正に管理されており、職員の利用者への言葉かけやケアサービスの際に、誇りやプライバシーを損ねないように配慮しながら対応している。	○	各ユニットにある面会簿は、来訪家族が順次記入するため一覧性のある様式である。ホームでは、この様式変更を予定しているので、速やかな実施を期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者はホーム側の都合ではなく、自分のペースで日々の暮らしを過ごしている。職員も起床時間、入浴、食事、各種楽しみごとなど押しつけることなく、利用者の希望に沿うように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や後片付けなど、職員と利用者が一緒に行なっている。食事中は職員がともに食事を取りながら話しかけたり、食事摂取の補助をしながら、利用者のペースに合わせた支援を行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週に2～3回を目途とし、午後に実施している。入浴を拒む利用者には、声かけや誘導を工夫して対応したり、浴室内に設置してある椅子型シャワーを利用することもある。排泄後の処理の場合は夜間でも対応している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は食事準備や後片付け、掃除、畑作業などの役割やパズルやカルタのゲーム、手芸や編み物などの趣味、ボランティアによる踊りや唄を楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は日常的にホーム周辺の散歩や食材を職員と一緒に買いに出かけたりしている。また、年間行事計画にもとづいて花見、外食、温泉など外出支援を実施している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム正面玄関は夜間帯のみに施錠している。ユニット入口に施錠システムがあるが、日中は施錠していない。入り口付近は事務スペースがあり、内部からも見通しが良いため、利用者の動向が分かりやすい構造になっている。		

北広島市 グループホーム 雪ぼうし

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を消防署の協力を得て、法人が運営する3施設合同で実施している。また、運営推進会議で地域の協力を呼びかけ、周辺住民の方々と一体となった訓練も計画している。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分摂取量を記録し、利用者に合わせた栄養バランスのある食事を提供している。運営法人に管理栄養士が在職し、ホーム食事メニューを定期的にチェックして、栄養指導報告書を作成している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの建物は、共有スペースの居間や食事場場所が明るくゆったりとしており、各所にソファや椅子などが置かれている。開設後4年以上経過したが内部全体に清潔感があり、鉢植えの植物が置かれ、季節の装飾や利用者手づくり作品が飾られて、親しみのある雰囲気に満ちている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室スペースは約6畳の広さでゆとりがあり、クローゼットも設置してあるため、使いやすい居住空間となっている。居室には利用者の気に入った調度品などの持ち込みは自由で、居心地よく過ごしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。